

地域に根ざした文化財保護



下町文化

第 194 号

平成10年5月15日

発行

江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課

文化財保護推進協力員

新たに20名を委嘱

協力員制度は、発足してからはや7年目を迎えますが、教育委員会では4月17日に新たに20名を協力員として委嘱いたしました。昨年度の委嘱者の方々とともに、今後2年間にわたって文化財の保護・普及にご協力いただくこととなります。

文化財保護推進協力員は、その名の通り、地域の歴史的な歩みを伝える文化財の保護・普及に御協力いただく方々です。その活動ぶりは、(1)有形文化財の調査、(2)町並み変化の写真記録、(3)10月開催の民俗芸能公開での会場設営や警備など多岐にわたります。いずれも文化財の保護・普及には大事な仕事です。

現在残されている文化財は、地域の財産です。京都や奈良のように有名なものではありませんが、数十年あるいは数百年もの長い間、そこに住んだ人々によって守り伝えられてきたものです。その意味では、その地域の人々にとって同じように重要であることにかわりはありません。

区内には、たくさん文化財が残されています。皆さんも、ちよつと気にしてみてはいかがでしょうか。

平成九・十年度委嘱者

池田 英子(南砂)	土屋 正躬(枝川)
石見羽津映(海辺)	戸田 政徳(東砂)
岩松 精(高橋)	富永 文昭(南砂)
植村 學(東陽)	藤田 登(東陽)
小澤 健一(北砂)	古郡 哲郎(渋谷区)
加藤 朝子(亀戸)	松本 敏子(猿江)
小島 隆(清澄)	三神 輝男(古石場)
齊藤 欣弥(東陽)	宮本 和子(東陽)
田村 誠一(木場)	矢部 和夫(白河)
津久井栄次郎(南砂)	山科 義郎(白河)

平成十・十一年度委嘱者

浅野 清(大島)	小島 道子(清澄)
安心院 研(南砂)	齊藤 恵子(千石)
大塚 栄一(亀戸)	佐藤 幸子(亀戸)
大沼 千早(東陽)	鈴木 英子(豊洲)
小笠原淑夫(豊洲)	田中 嘉明(扇橋)
岡本ヨシエ(塩浜)	菱木 宏(大島)
川村昭治郎(北砂)	福井 穂積(平野)
北川 房枝(北砂)	松澤 弘治(高橋)
北村儀一郎(東陽)	安田 武恒(南砂)
小久保 良(東陽)	吉藤 賀好(北砂)

協力員と文化財保護活動

新たな目標に向かって

本年度、新たに委嘱をうけた方々のうち、4名の方に今後の抱負などを語っていただきました。

協力員7年目を迎えて

東陽 北村 儀一郎

協力員の委嘱は最初からで、不勉強ながら7年目となりました。まがりなりに助けられてこれまでやって来られましたのも、文化財係の良き指導者と熱意あふれる協力員の良きパートナーに恵まれたお陰と感謝しております。

むずかしい点もあったけれども、有形文化財の現況確認調査やガイドを始め、定点観測調査、それに加えて角乗・力持（無形文化財）など秋の文化祭イベント開催準備の協力に参加し



ました。

江東区内の文化財に触れることを通して、江戸時代の深川や城東地域の人々の暮らしぶりや、現在は見られない生活の喜びなどの発見が出来ればと、ひそかに期待しております。

文化財保護活動を

通して想うこと

北砂 吉藤 賀好

協力員となって今年で4期目、初級、中級を含めると約8年、月日のたつのは速い。

私は砂町に住んで30数年、初級講習受講当初、江東区の住人でありながら江東区の歴史に疎いとぼやいていた頃を想い出すと、多少でも判ってきた今日、隔世の感を抱く。これも偏に区の講習会、並びに諸先輩のご指導の賜ものと感謝する次第である。現在の心境は、深川・城東と担当が分けられているが、分けないう江東の歴史全体をガイド出来る研究態勢にもって行ってもらいたい。と同時に自分自身の努力目標として、

手持ち資料の整理分類、活用出来るよう73の年寄り手習い、ワープロに挑戦中である。



4期目を迎えて想いを新たに、江東区の歴史を後世に伝えるため益々研鑽に励みたい。

区の歴史に魅せられて

亀戸 佐藤 幸子

私は区の協力員になります以前にも、区内の史跡等も多少は知っておりました。しかし、その歴史とか由緒となりますと、協力員になり勉強をするようになりまして、初めて知ったという事が多くありました。

亀戸天神裏に津軽藩の下屋敷があつて、その当時の日記が今も残されているいたり、清澄庭園は関宿藩久世大和守の下屋敷であつたり、新幹線の一号車が区内で造られた…等と、区外との意外な関係も知ることが出来ました。この様な史実を知る事も楽しい事です。そうしますと、又、史跡の見方等も今迄と変わりますし、興味もわいてきます。

協力員として、区の歴史や史跡等を町の方々にも伝えられる様に勉強して行きたいと思ひます。

文化財の行方

塩浜 岡本 ヨシエ

“文化財ってなに？”その程度の知識もなかった私…。毎年春になると何かをしなればという思いがわいて来る。そんなとき区報で見つけた文化財の生涯学習の事。すぐに応募し三年を経て協力員になりました。

昔と違って核家族が進み、親子断絶など当たり前の作今、昔の風習、生活習慣、言い伝え等を父や母やおじいちゃんやおばあちゃんから耳にする事が少なくなり、又身の回りにある物、あつた物を気にしなくなり、忘れられ大事にしなくなつて来ています。だからこそ、心のルーツ・文化財を大切に捉まえ、守つていかなくてはと思います。

今の私たちに出来る事、やらなければならぬ事、沢山沢山有り過ぎる位です。が、それは心の教育・豊かさ、そしてゆとりにも通じる所があるのではないかと思います。そして今、自分に出来る事を一生懸命遂行していこうと思ひます。

第36回文化財講習会

亀戸の歴史

文化財係では毎年地区ごとに歴史と文化を知っていただくための「地区別講習会」を開催しています。

今回は伊勢神宮の荘園「葛西御厨」に含まれ、区内で最も古い歴史を持つ「亀戸」にスポットを当てます。今まで知らなかった新しい亀戸の姿が見えてくるはずですよ。聞いて、歩いて、見て、亀戸の歴史と文化を探りましょう。

【日程・内容】

- 6/10(水) 亀戸の歴史
 - 6/17(水) 亀戸の文化財
 - 6/20(土) 亀戸のむかしさがし
 - 史跡めぐり —
 - 6/24(水) 亀戸の富士講
- 時間 午後6時30分～8時
20日は午後1時30分～4時30分
会場 青少年センター（亀戸7-41-16）

松平樂翁公墓之町祭



江戸時代の三大改革の一つといわれる寛政の改革を
実行した、松平定信（白河藩主）の
墓前祭（169回忌）が行われます。

講師 文化財専門員ほか
対象 区内在住・在勤の方
定員 70人（多数の場合は抽選）

申込方法 往復ハガキに住所・氏名・年齢・
電話番号を記入し、5月29日まで
にお申込み下さい。

◆申込先・問合

〒135-8383 江東区東陽4-11-28
生涯学習課文化財係
（3647） 9111（内）3362

新刊紹介

『牧野家文書』5

『江東区文化財研究紀要』9

昨年度に引き続き、『牧野家文書』5と
『江東区文化財研究紀要』9を刊行しました。
『牧野家文書』は、今号で最終巻となり、
明治の初めごろまでの史料を収録してい
ます。中でも江戸中期ころより本芝で両
替商を営んでいた中井家が、明治初年に
は十六番組の町年寄りに任命されていた

墓は国指定の史跡となっており、当
日公開されます。

なお、法要後には頼惟勤氏（お茶の
水女子大学名誉教授）の講演が予定さ
れています。

日時 6月14日（日）午後2時から
場所 霊巖寺（白河1-3-32）
*都バス（門33系統 清澄庭園下車
主催 財団法人 東京都慰霊協会

ことを示
す史料「諸
用留」、牧
野家の日
常生活や
親類など
との交際
について
窺える明
治4年！

6年にかけての「日記」など、興味深い
史料が見られます。
『江東区文化財研究紀要』は第9号とな
ります。今号では、「近世隅田川の架橋と
深川住民」橋の維持と役をめぐって（久
染健夫氏）、「越中嶋新田平助請地の抱屋
敷化と定行事平助の活動」高田藩への屋
敷譲渡をめぐって（赤井孝史氏）、「近
世近代移行期の長州藩毛利家と抱屋敷内
神社」砂村稲荷神社関係文書の紹介
を中心として（小泉雅弘氏）の三氏に
よる論文を掲載しました。



『牧野家文書』は一部千円。『江東区文
化財研究紀要』は一部七百円。2冊とも
江東区役所6階生涯学習課文化財係窓口
で頒布しています。

芭蕉記念館から

芭蕉記念館俳句会

日時 5月26日（火）午後1時30分
内容 兼題 夏季雑詠3句 席題なし
対象 区内在住・在勤の方50人
費用 無料 締切 5月24日（日）
ジュニア俳句教室

日時 6月13日（土）午前9時30分
対象 区内在住の小学生30人
費用 無料 締切 開催日の前日
申込 いずれも窓口または電話で

文学講習会

（A）コース 俳句入門

期間 6月25日（木）～7月30日（木）（5回）
時間 午前10時～正午
講師 区俳句連盟会長 細田豊明

（B）コース

芭蕉歳時記～季語のイメージ～
期間 6月26日（金）～7月31日（金）（5回）
時間 午後6時30分～8時
講師 神奈川大学教授 復本一郎

対象 区内在住・在勤の方
定員 （A）30人（B）50人多数の場合は抽選
申込 往復ハガキに住所・氏名・電話番号・
年齢・受講希望コースを書いて芭
蕉記念館へ（両コース希望の場合
は別々のハガキで）

締切 6月12日（金）必着
〒135-0006 江東区常盤1-6-3

江東区芭蕉記念館
（3631） 1448

工匠館から

伝統の技 実演公開

毎月第一・第三日曜日に、工匠会館
（森下文化センター内）で行っています
職人さんの今後の実演日程は次のとおり
です。

6月7日 刺繍（紋章） 天野 一政
*時間は午後1時～3時

東京商船大学校舎が 国の登録文化財に!!

平成9年12月、越中島2の東京商船大学の1号館、2号館、事務局管理棟、旧天体観測所（第一・第二観測台）の5棟の建物が、国の登録文化財となりました。平成8年10月、国による文化財の登録制度（建造物）が施行されて以来、江東区では初めての登録となります。

東京商船大学は、明治8年（1875）設立の私立三菱商船学校を前身とし、明治15年（1882）官立学校となつて、明治19年東京商船学校と改称しました。明治32年深川越中島に移転し、明治35年新校舎を設置し昭和32年（1957）に東京商船大学となり現在に至っています。

今回、国の文化財として登録されたのは、明治期、昭和初期に建てられた、区内でも数少ない貴重な近代建築です。ここで、簡単にご紹介しましょう。

1号館

清澄通りに面した正門を入って正面にあります。建築年代は昭和7年（1932）。鉄筋コン



クリート造3階建。正面の玄関口のアーチは、首相官邸によく似ています。この1号館は、船橋（ブリッジ）



事務局管理棟

2号館

越中島通りに面した門を入って正面にあります。水産講習所本館として昭和8年に建てられました。鉄筋コンクリート造2階建。近年改修を受けていますが、正面の外観は建築当時のまま残されています。

事務局管理棟

正面を入って右手にあります。昭和7年、図書館として建てられました。鉄筋コンクリート造2階建。船

をイメージして作られており、船尾をかたどった優雅な曲線が特徴です。

旧天体観測所（第一観測台）

正面を入って左手にあります。建築年代は明治36年（1903）。煉瓦造2階建。東京商船学校の越中島移転・新校舎設置に伴う教育設備充実の一環として建てられ、航海用天

体暦の研究や航海天文学を教授するための施設でした。内部には、当時東洋一といわれた天体望遠鏡が備えられていました。

旧天体観測所（第二観測台）

第一観測所の隣にあり、明治36年の建築です。煉瓦造平屋建。子午儀を備え、天体の子午線通過時刻を測定し、経度・緯度を測りました。

この旧天体観測所（第一・第二観測台）はともに明治36年の建築で、震災、戦災をのりこえて現存する、数少ない煉瓦造の建築物として価値があります。



第二観測台

たくみ 工匠式番館特別展

石井靖子と その弟子たち

日本刺繍の技術の保持者として、江東区の無形文化財に認定されていた石井靖子さんが、去る平成9年3月に亡くなられました。工匠式番館において、遺作となつた作品の数々と石井さんの教えを受け継ぐお弟子さんたちの作品を展示します。入場は無料です。



石井さんは、大正2年石島で生まれました。大正14年から4年間共立女子職業学校刺繍科で学び、両国・横浜などで修業を続けた後、石島へ戻り独立しました。以降、発表会や展覧会を開催するなど、とくに後進の指導と普及に力をいれてこられました。

会場 工匠式番館
森下文化センター2階
期間 5月16日(土)〜24日(日)
午前10時〜午後6時
※18日は休館日

森下文化センター2階